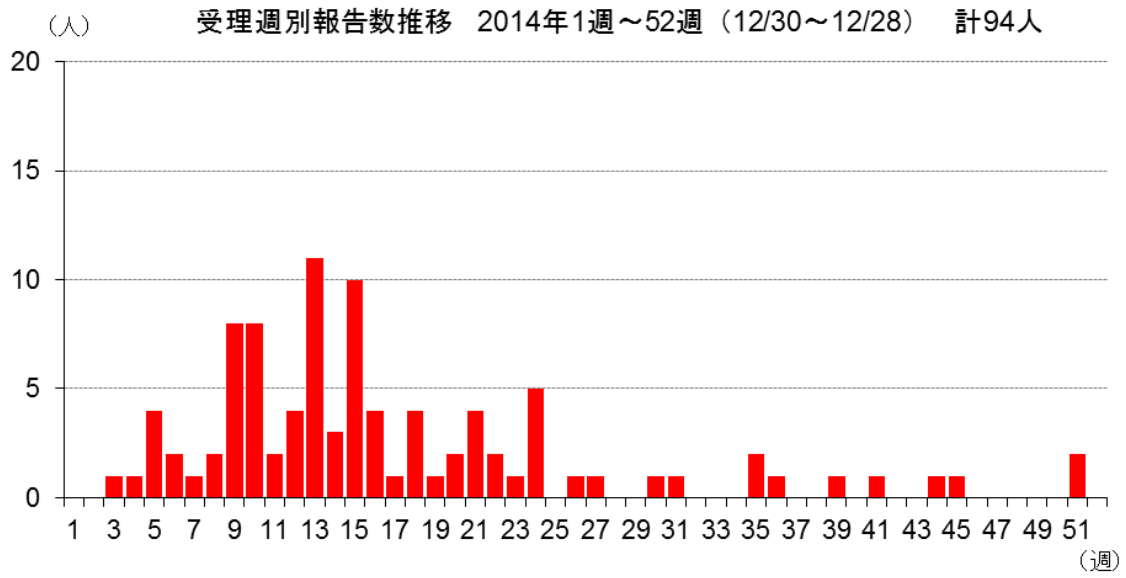
資 料 6

都内における麻しんの発生状況（2014 年 1 週から 52 週）

東京都健康安全研究センター

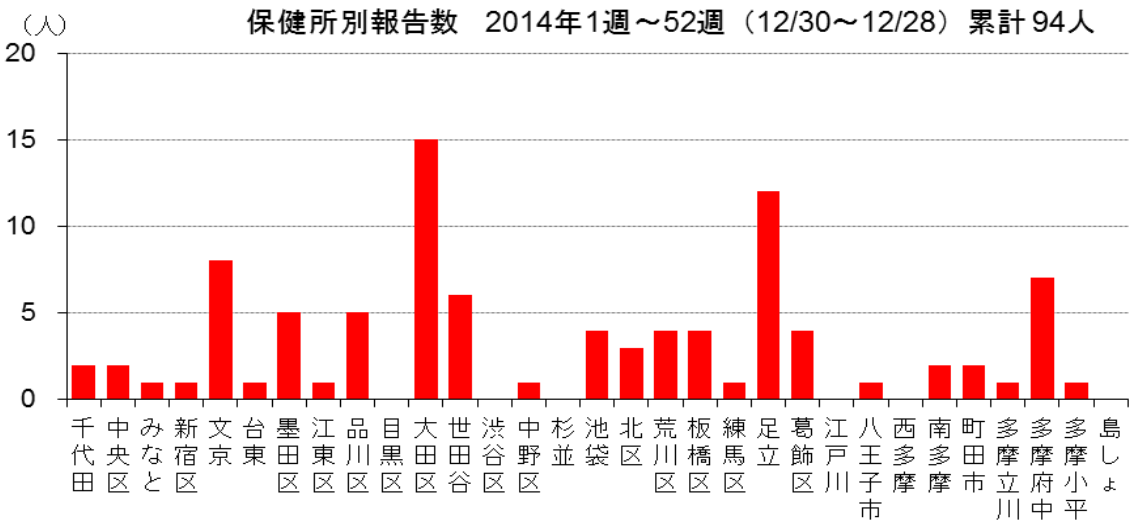
1．患者報告数の推移

2014 年の年間累計報告数は 94 人であった。ピークは 13 週の 11 人であり、それ以降は減少し、25 週以降は 0 人から 2 人の報告数であった。



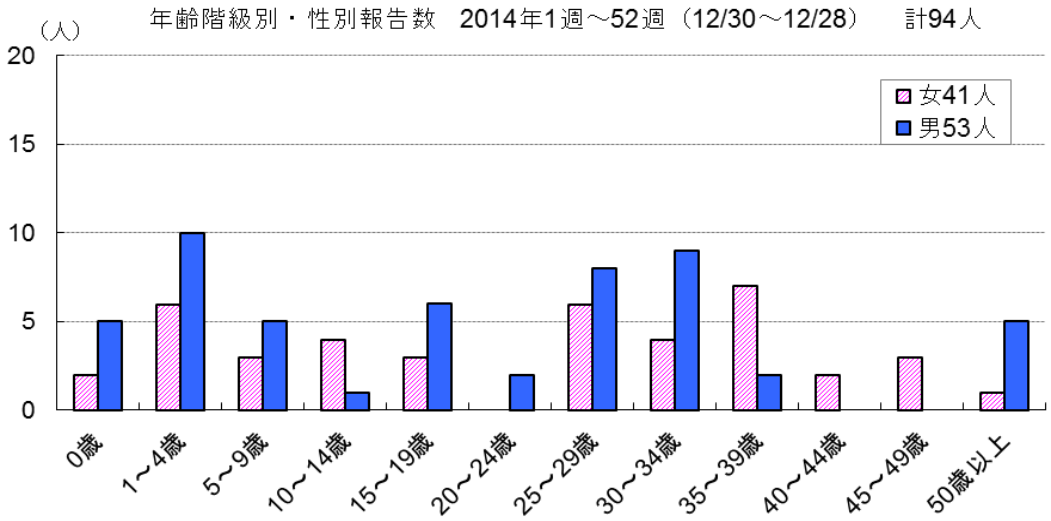
2．保健所別報告数

29 保健所中 23 保健所から報告があり、報告数が多い保健所は大田区保健所（15 人）、足立保健所（12 人）、文京保健所（8 人）、多摩府中保健所（7 人）であった。



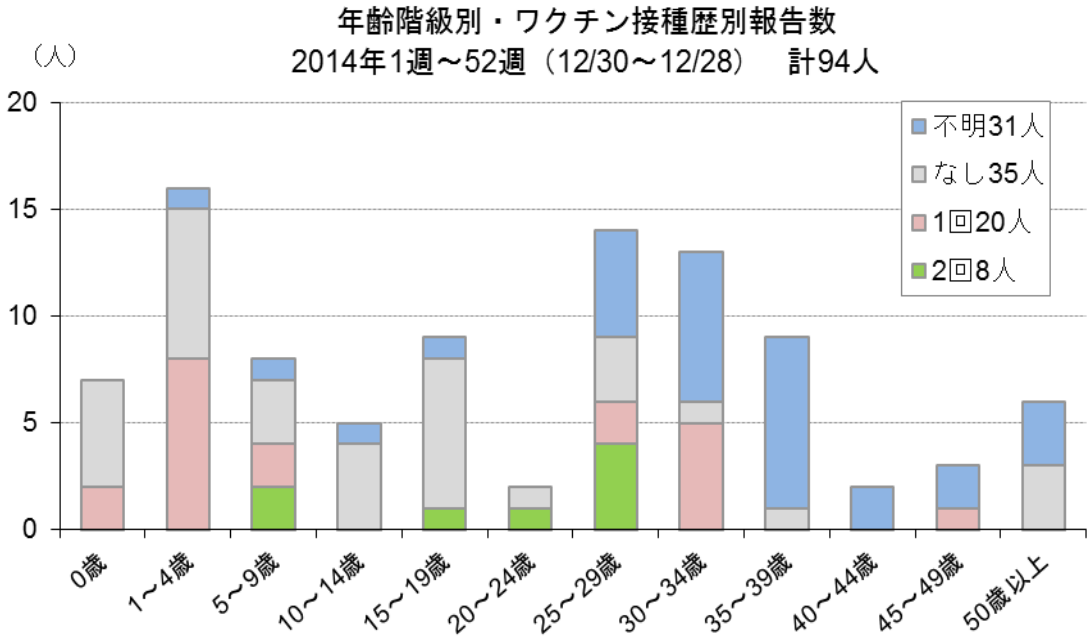
３．年齢階級別・性別報告数

報告された麻しん患者を性別でみると、男性 53 人、女性 41 人と男性の方がやや多かった。年齢階級別・性別でみると、報告数が多いのは 1～4 歳の男性（10 人）、30～34 歳の男性（9 人）、25～29 歳の男性（8 人）であった。



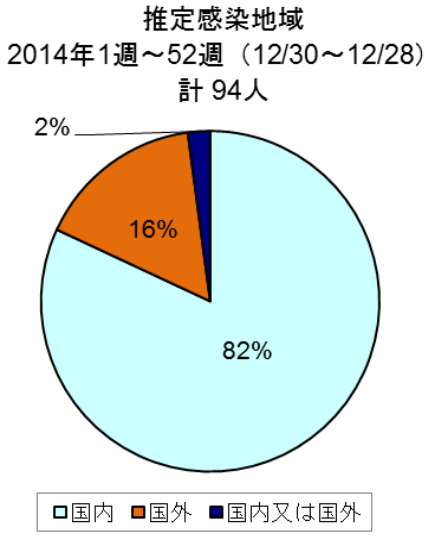
４．年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

報告された麻しん患者をワクチン接種歴別でみると、2 回接種が 8 人、1 回接種が 20 人、接種なしが 35 人、不明が 31 人であり、接種なしと不明を合わせた割合は約 70%であった。



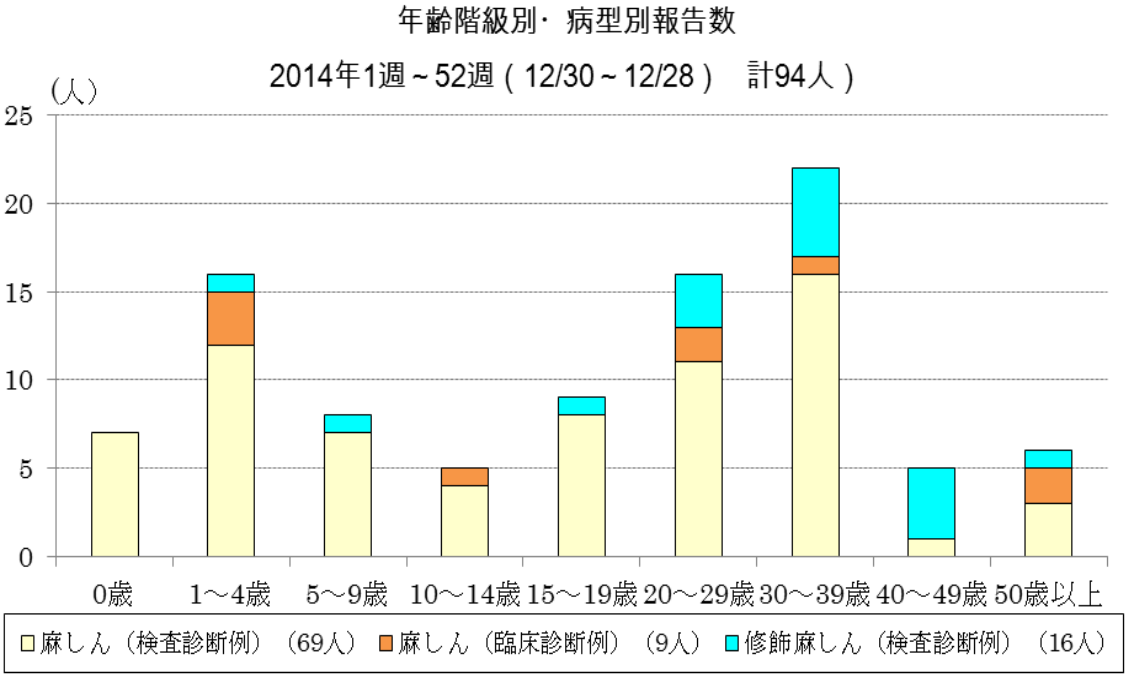
５．推定感染地域

推定感染地域は「国内」が 77 人（82%）、「国外」が 15 人（16%）、「国内又は国内」が 2 人（2%）であった。



６．年齢階級別・病型別報告数

報告された麻しん患者を病型別でみると、麻しん（検査診断例）69 人、麻しん（臨床診断例）9 人、修飾麻しん（検査診断例）16 人と、麻しん（検査診断例）が最も多かった。



7．麻しんウイルス検出状況

東京都では平成22年から医療機関で麻しんと診断された患者について協力が得られた場合、当センターでPCR検査を実施している（PCR検査実施状況参照）。2014年に実施した検査は250人で、麻しんウイルスが検出された者は75人（検出率30%）であり、病原体サーベイランスで麻しんウイルスが検出された3人と合わせた人数は78人であった。遺伝子型の内訳はD9型11人、D8型19件、H1型1人、B3型37人、A型（ワクチンタイプ）5人、型別検出不能5人であった。

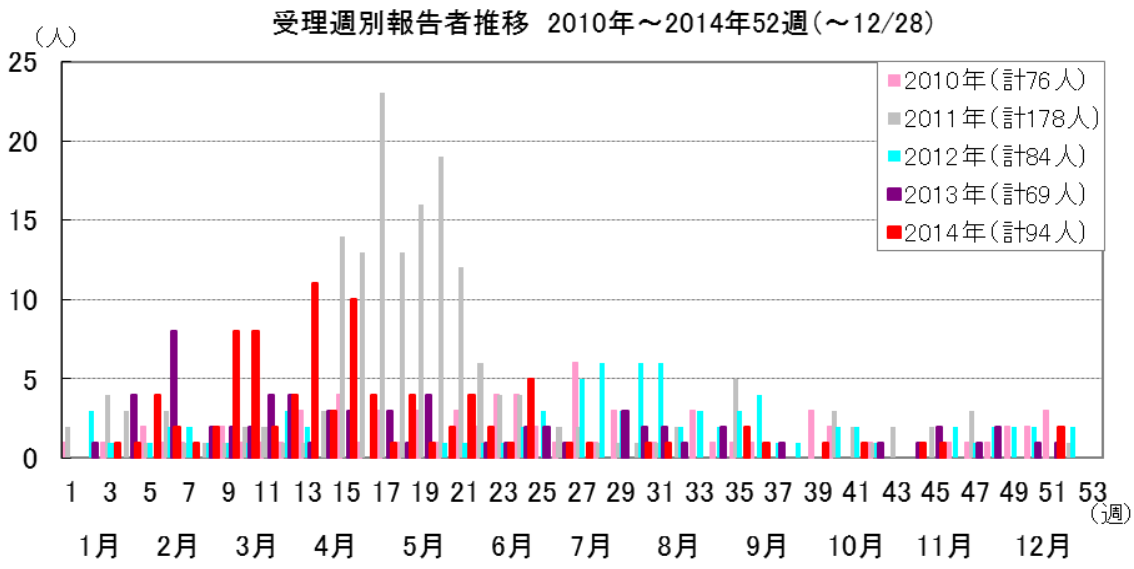
受理週別麻しんウイルス検出及び推定感染地域の状況

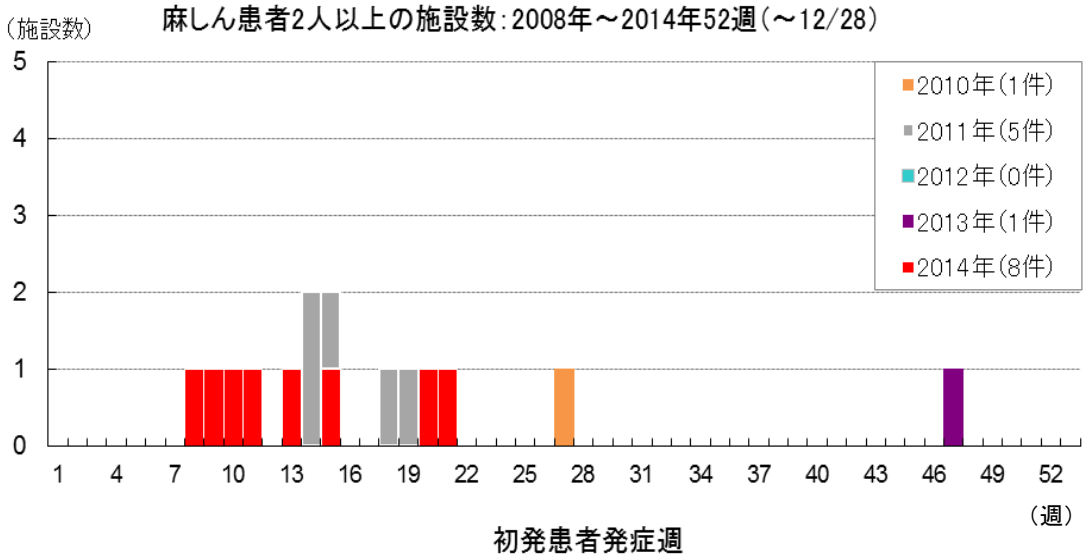
受理週	D9型	D8型	H1型	B3型	型別検出不能	A型	推定感染地域
1週							
2週							
3週				1			国外（フィリピン）
4週				1			国外（フィリピン）
5週				4			国内・国内又は国外（フィリピン）
6週				1			国外（アメリカ）
7週					1	1	国内
8週				2			国内
9週		2		6			D8：国内、国外（ベトナム又はマレーシア） B3：国内、国外（フィリピン）
10週				7			国内
11週				1			国内
12週		2		2			D8：国内 B3：国内
13週		4		6	1		D8：国内、国外（カザフスタン） B3：国内、国内または国外（フィリピン）
14週	2						国内
15週	4			2	3		D9：国内 B3：国内、国外（フィリピン）
16週	3			1			D9：国内 B3：国外（フィリピン）
17週							
18週	2						国内
19週							
20週			1				国外（中国）
21週		2					国内
22週		2				1	A ：国内 D8：国内、国外（インドネシア）
23週		1					国内
24週		4					国内
25週							
26週							
27週						1	
28週							
29週							
30週							
31週							
32週							
33週							
34週							
35週		1		1			B3：国外（フィリピン） D8：国外（インドネシア）
36週				1			国内
37週							
38週							
39週							
40週							
41週				1			国外（ソロモン諸島）
42週						1	
43週							
44週							
45週							
46週							
47週							
48週							
49週							
50週							
51週		1					国外（インドネシア）
52週						1	
計	11	19	1	37	5	5	

＜参考＞

１．患者報告数の推移（2010 年～2014 年）

過去 5 年間でみると、2011 年 15 週（4 月）から 21 週（5 月）にかけて麻しん患者が増加し、年間では 178 人の報告があった。2012 年、2013 年は 100 人以下と例年通りの患者数となったが、2014 年の 3 週（1 月）から 24 週（6 月）にかけて報告数が増えたことを原因とし、累計患者報告数は過去 5 年間で 2 番目に多い年となった。



２．学校等における発生状況

保健所等が把握した学校等での複数の患者の発生事例は、2010 年は 1 件（小学校）、2011 年 5 件（小学校 2 件、その他 3 件）、2012 年 0 件、2013 年 1 件（保育園）、2014 年 8 件（保育園 1 件、高校 1 件、専門学校 2 件、その他 4 件）であった。